変化した高校生の意識

９５年９月の米兵の少女暴行事件の後、沖縄の高校生の意識が変わったことを沖縄県高教組の新城俊昭氏の調査が明らかにしました。分析は割愛して、はじめに及び９５年３月実施の調査と９５年１１月の調査とを対比したグラフを紹介します。　（編集部）

はじめに

去る９月４日に起こった米兵による少女暴行事件は、沖縄県民に衝撃を与え、長年くすぶり続けていた沖縄の基地問題に火をつけた。こうした社会の動きは、今まで基地に無関心だといわれた若者にも大きな影響をあたえた。

今年３月、県内６地区９高校の約３．０００人の生徒を対象に、「戦50年課 沖縄戦・米軍基地に関する高校生の知識と意識の調査」を行った。その結果は、芳しいものではなかった。とくに米軍基地に対する意識は弱く、全国の米軍専用施設の何割が沖縄におかれているのか、沖縄本島の面積に占める米軍基地の割合がどの程度なのかを、きちんと答えられた生徒は２割程度と少なかった。また、米軍基地を撤去すべき、整理・縮小すべきと答えた生徒も合わせて、６５・５％にとどまった。けっして低い数値ではないが、一般県民の調査と比較すると高校生の意識は弱いといえる。現実の問題として、もっと基地についての学習を深める必要があるだろう。３月に実施したアンケート結果の詳細については、「新城ブックレット１９号」に収録して、県内の全高校に配布してあるので参考にしていただきたい。

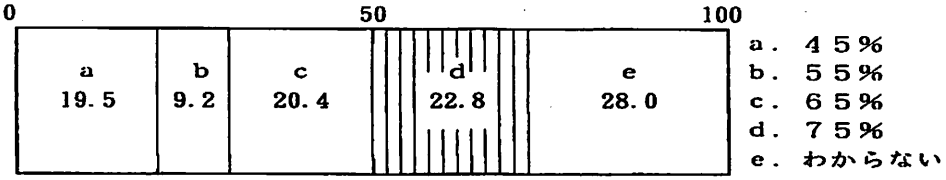
しかし、冒頭に述べた米兵３人による忌まわしい事件は、基地に無関心だといわれた若い世代にも大きな衝撃をあたえ、基地問題を学ぶことの重要性を教えた。県民大会での仲村清子さんの発表や、沖縄県大学間憲法ゼミネットワークの取り組み、そして、身近な教え子たちの反応からもそのことは感じとれる。今回はそうした高校生の意識が、米兵による暴行事件後、具体的にどのように変化したのかを調べるための追跡調査を行った。ただし、前回のような大がかりな調査はできなかったため、豊見城高校、陽明高校、普天間高校、コザ高校の４校に協力していただいた。データとしては、前回より大幅に縮小したが、結果についての誤差は、そう大きくはないと判断している。この調査分析が、なんらかの参考資料になれば幸いである。

沖縄の米軍基地に関する追跡調査の結果とその分析

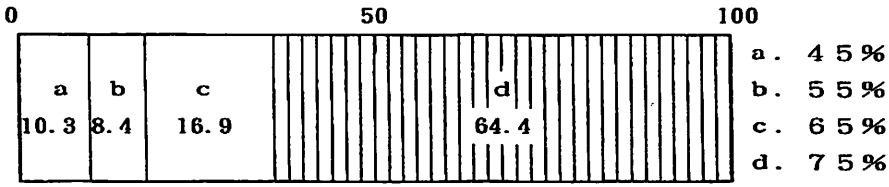
対象：３月実施：９高校　2,941人
　　11月実施：４高校　　450人

１．全国の米軍専用施設の何パーセントが沖縄におかれていますか。

〔１９９５年３月実施〕　（正答．ｄ）

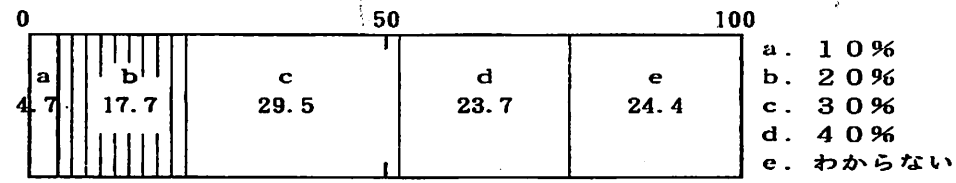


〔１９９５年１１月実施〕

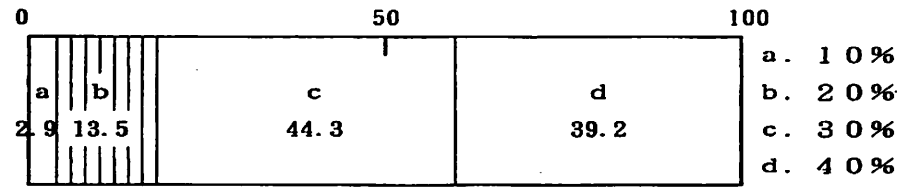


２．沖縄本島の面積に占める米軍基地の割合は何パーセントですか。

〔１９９５年３月実施〕　（正答．ｂ）

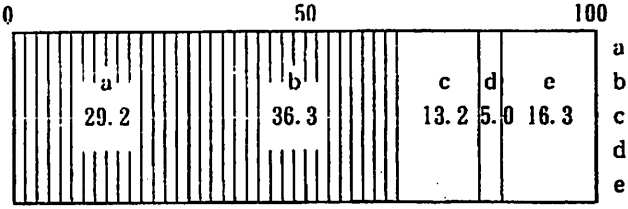


〔１９９５年１１月実施〕



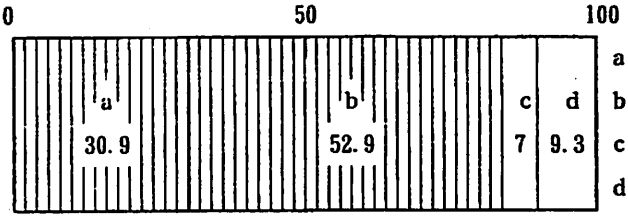
3．沖縄に基地があることについてどう思いますか。

〔１９９５年３月実施〕



a．撤去すべき
b．整理･縮小すべき
c．今のままでよい
d．日本の防衛のために必要
e．わからない

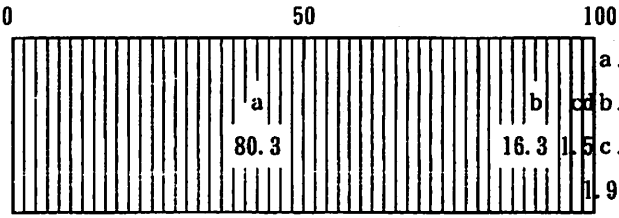
〔１９９５年１１月実施〕



a．完全撤去すべき
b．整理・縮小すべき
c．今のままでよい
d．わからない

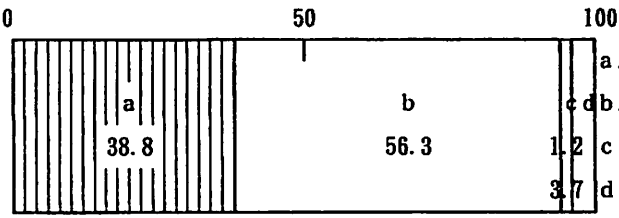
4．今回の米軍兵士３人による少女暴行事件を、あなたはどのように受けとめましたか。

〔１９９５年１１月実施〕



a．絶対に許せない行為である
b．許せない行為である
c．しかたないことである
d．わからない

5．上記の事件の責任について、あなたはどう思いますか。



a．基地がもたらした犯罪である
b．米兵個人の問題である
c．不用心だった地域が悪い
d．わからない